

市町村立図書館等活動支援誌

あけぼのつうしん

No.4 1

2012年10月24日発行

内 容

- 平成24年度市町村活動支援事業から
- 平成24年度全道図書館中堅職員研修会
- 道内図書館(室)トピックス
- お役立ち情報



北海道立図書館

〔目次〕

■ 平成24年度市町村活動支援事業から	2
*美瑛町【運営相談】	
*喜茂別町【子ども読書活動支援（学校ブックフェスティバル）】	
*厚沢部町【子ども読書活動支援（学校図書館環境改善事業）】	
■ 平成24年度全道図書館中堅職員研修会	4
■ 道内図書館（室）トピックス	5
①利用倍増！（天塩町）	
②ひまわりの町の図書館、リニューアルが進んでいます（北竜町）	
③特集棚、おはなしえほんバッグ、はじめました（鷹栖町）	
■ お役立ち情報	7
①『子どもと本をつなぐ図書館179』、ご覧になりましたか	
②「外国語絵本」を利用してみませんか	
③「調べ学習支援セット」をご活用ください	
④「朝読・昼読ボックス」残り1セットです	

■平成24年度市町村活動支援事業から

今年度も多くの市町村にお申込みいただき、9月末までの半年で30市町村実施しました。そのうちいくつかの事例を、ピックアップしてご紹介します。

* 美瑛町図書館【運営相談】 5月15日実施

美瑛町図書館は、昭和38年に建築された郷土資料館との複合施設でしたが、今年6月1日、およそ2倍の広さで図書館単独の新館がオープンしました。天井や壁に美瑛産の木材や軟石がふんだんに使われ、天井が高く、ゆったりとした気持ちのよい新館です。

数年にわたり司書が不在でしたが、4月からは司書（臨時職員）を新たに採用しました。そして、新館の開館に合わせ「レファレンスサービスの姿勢」というテーマで、接客を中心とした研修を運営相談として実施しました。

研修のまとめに、図書館の三要素、ランガナタンの図書館学の五法則を確認し、図書館サービス全体が住民へのPRになることをお話ししました。また、督促に係る子どものプライバシー、当館のリクエスト対応等について、質問を受けながら、話し合い、理解を深めました。



新館の外観

* 喜茂別町公民館図書室【子ども読書活動支援（学校ブックフェスティバル）】

6月21日実施

全校児童7名の鈴川小学校で開催しました。鈴川小学校は、昨年度「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用し、図書館の本や書架を更新しています。当館からも学校図書館環境改善事業や選書の助言等で支援しました。

フェスティバル当日は、喜茂別町の読書推進員（有償ボランティア）による読み聞かせのあと、体育館いっばいに広げられた600冊の本、80冊のしかけ絵本、おはなしめいろ、そしてステージに広げた200冊の理科読本（学校図書館サポートボックス）を楽しみました。

全校で119冊の本が借りられ、中には10冊以上選んだ児童や、当日欠席した妹の分まで選ぶ児童もいました。

この日利用された理科読本は、鈴川小で引き続き利用されたあと、町内のもう1つの小学校である喜茂別小学校にも巡回し、活用されました。

今年度喜茂別町では、公民館図書室の資料費を増額し、10月には初めてブックスタートを実施するなど、子どもの読書活動の推進に力を入れています。



***厚沢部町【子ども読書活動支援（学校図書館環境改善事業）】** 6月5日実施

たて 館小学校（児童数35名）及びたて 館中学校（生徒数17名）を支援しました。

館小学校では、児童が読む本は、児童玄関前の図書コーナーにあります（写真1）。2階にある図書館は、書庫、パソコン部屋として使用しています（写真2）。

図書コーナーは、ほとんどの児童が帰る前に立ち寄り、バスを待ったり友だちと待ち合わせをする際によく利用されているとのことでした。しかし、書架ではなくロッカーを使用し、奥行きが深い棚に図書を前後二列に置いているため、見づらい状態です。そこで、見やすい棚にするために、除架をしたり、見出しを入れることを助言しました。さらに、新着本や簡単な展示・資料紹介のコーナーをつくることも助言しました。

図書館については、古い百科事典など利用の見込みがないものを除籍し、授業等で使いそうなものを中心とした書庫とし、より活用できるようにすることを助言しました。



（写真1 児童玄関前図書コーナー）



（写真2 図書館はパソコン部屋に）

館中学校は、古い資料が多く（写真3、4）、利用する生徒が限られているとのことでした。

そこで、棚を新しく見せるために、全集や内容の古くなっている百科事典、社会科学を中心に除架し、見出しを付け、サインを付けること、利用を阻害している書架のガラス戸を外すことを助言しました。

また、新刊コーナーはありましたが、図書館の奥と廊下の2か所に分かれていたため、図書館入口近くの1か所にまとめ、飾り付けをして目立たせることを助言しました。



（写真3 古い全集がびっしり）



（写真4 ガラス戸付きの書架に古い資料）

■平成24年度全道図書館中堅職員研修会

この事業は、北海道図書館振興協議会と当館の主催で、今年度は全道各地の図書館（室）から23名の中堅の方が参加されました。

異なる二つの要素が重なりあうことで、新しい展開が生まれる。この「クロスオーバー」という考えは、古くから私たちの生活に多くの実りをもたらしてきました。平成24年度全道図書館中堅職員研修会冒頭の講演「図書館と観光の融合～図書館は地域の情報拠点～」は、まさに異質なものの組み合わせから生まれる図書館の新しい姿を示してくれたように思われます。

講師は、北海道大学観光学高等研究センター学術研究員の松本秀人先生。新進気鋭の研究者です。

「図書館と観光」という発想は平成22年に群馬県草津温泉において開催された「第57回図書館問題研究会全国大会」で初めて取り上げられたものです。図書館が、観光者のとりこみを通じて「まちづくり」の核となるという視点は、近郊に観光資源を持つ図書館に、新たな運営のヒントをもたらしました。



松本先生は図書館と観光との関わりを「まちづくり」から更に一歩進めることを提言しました。

観光者と地域住民の交流の場となることで、図書館が地域の情報拠点としての新たな役割をはたしていくという新しいビジョンを、豊富な事例とともに私たちに提示してくれました。

今後、図書館が新たな利用者を獲得し、豊かなサービスを提供していくためには、「まず図書館自体が観光者と地域とを結びつける結節点となり、次にそこを足場とした『図書館と観光の融合』が必要だ」という松本先生の主張は、会場の受講生に新鮮な驚きと印象を与えてくれました。

図書館も観光も「地域の資源・コンテンツを守り、多くの人へ伝えていく」というテーマを持っています。その共通の視点から「参加、学習、体験、交流、そして融合」をキーワードとした、新しい図書館の姿を具体的に指し示してくれた松本先生に対して、受講生から惜しみない拍手が送られていました。

■道内図書館（室）トピックス

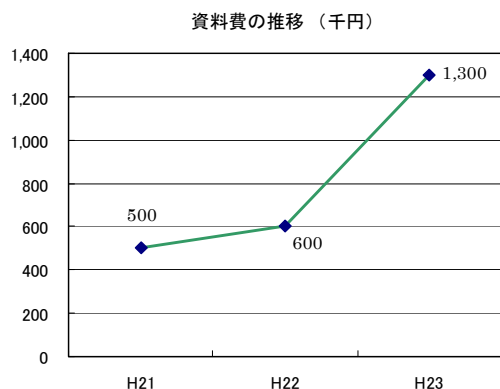
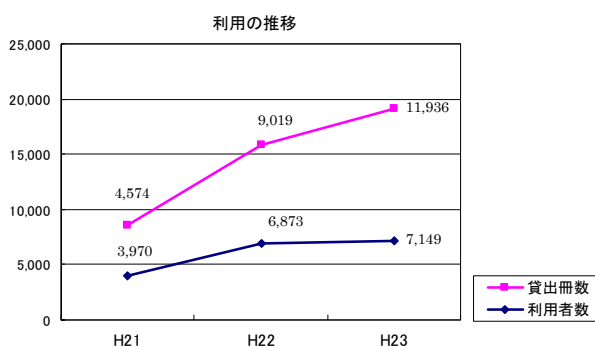
①利用倍増！ 天塩町社会福祉会館図書室(天塩町)

天塩町民に「図書館」として親しまれている社会福祉会館図書室が、この3年間で本の貸出冊数など図書室の利用を飛躍的に伸ばしました。

築40年以上の建物ですが、教育委員会の職員自ら図書室の壁を塗り替え、思い切って古い本を除籍して書架を減らし、新着本のコーナーを設置するなど、お金をあまりかけずに、利用者の視点で居心地のいい明るい雰囲気づくりを心がけてきました。

それとともに、平成22年度・23年度の2年間、当館の市町村活動支援事業「図書館活動重点サポート」による支援が拍車をかけました。

図書室の利用者・貸出冊数は、次のグラフのような実績となりました。これらの実績により、図書等の購入予算も増額で維持されています。



天塩町社会福祉会館図書室の動き（平成20年度～23年度）

●平成20年度

- (1) 当館の運営相談を受け、図書室を大幅にリニューアル
 - ・職員による壁の塗り替え
 - ・書架、カウンター配置等レイアウトの見直し
 - ・BGMを流す
- (2) 一日図書館フェスティバルの開催

●平成21年度

- (1) 当館の運営相談を受け、図書室業務の見直し
 - ・図書室レイアウトの変更をさらに進める。
 - ・古い資料の除籍
 - ・施設内表示（サイン）の工夫
- (2) 資料展示会の開催（4回）

●平成22年度

- (1) 資料展示会の開催（2回）
- (2) 新刊書重点貸出しに指定
 - ・運営相談
 - ・一日図書館フェスティバルの開催

●平成23年度

- (1) 学校ブックフェスティバルの開催
- (2) 図書館重点サポートに指定
 - ・運営相談
 - ・図書館フェスティバルの開催

②ひまわりの町の図書館、リニューアルが進んでいます（北竜町）

北竜町図書館は、カウンターに職員を配置できない状況がしばらく続いていましたが、平成22年12月末から当館の運営相談を開始し、「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用した図書、書架の更新および配架の改善に取り組みました。23年度からは、司書（臨時職員）が配置されました。

今年度4月からは、電算化を開始しました。そしてリニューアルした図書館を町民に広くPRするために、専任の司書による図書館だより（※）を毎月発行しています。また、除架・除籍をさらに進め、館内サインを一新し、図書館前の国道に面した場所に、新しい看板も設置しました。町のシンボル、ひまわりを配した素敵なデザインです。



北竜町は、今年開町120年を迎えました。9月1日には図書館の2階にある郷土資料館もリニューアルオープンしました。これに合わせ図書館では、当館資料を使った企画資料展「北竜の竜だ！ひまわりだ！」を行い、子どもから大人まで好評を博しました。



※「北竜町ポータル」>教育委員会より、「図書館だより」を見ることができます。<http://portal.hokuryu.info/hokuryu-town/education/librarynews>

③特集棚、おはなしえほんバッグ、はじめました（鷹栖町）

鷹栖町公民館図書室では、しばらく職員を常時配置できない状態でしたが、今年4月の運営相談後に勤務体制の見直しをし、月曜日を休みとし、それ以外は毎日開室するようにしました。また、利用が増える8月には、必ず職員がつくようにしました。さらに特集棚を作り、8月の人気本の特集では、東野圭吾の作品や芥川賞受賞作など、特集棚に並べられた本がほとんどが貸し出されていたほど利用されていました。

また、「おはなしえほんバッグ」というおすすめ絵本5冊のセットを製作しました。対象年齢ごとに4段階あるこのセットは、絵本の知識の豊富なボランティアによる内容の解説つきで、かわいい手作りの布バッグに入っています。



■お役立ち情報

① 『子どもと本をつなぐ図書館179』、ご覧になりましたか

北海道図書館振興協議会では、H22・23年度に行った調査研究事業の成果として、「子どもと本をつなぐ図書館179」(「北海道内図書館における子ども読書活動取り組みの現状と事例研究」の調査報告書)を発行しました。

道内の8人の司書が集結し、調査研究チームを編成してまとめあげたもので、当館ホームページの「連携のページ(関係団体等)」内の、「北海道図書館振興協議会刊行物」に掲載しています。先進的な市町村の事例や、今すぐ参考にできそうな事例を多数掲載しています。ぜひ参考にしてください。

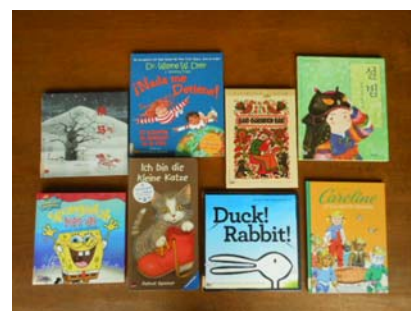
北海道立図書館 HP>連携のページ(関係団体等)>北海道図書館振興協議会>刊行物>研究報告書『子どもと本をつなぐ図書館179』

<http://www.library.pref.hokkaido.jp/web/relation/hts/gulnh00000000ew3-att/gulnh000000029ce.pdf>

② 「外国語絵本」を利用しませんか

「図書館活動支援ボックス」に新たに外国語絵本を加えました。中国語、韓国語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語で出版された絵本で、合計300冊以上、なかにはしかけ絵本もあります。

英語の絵本だけ、アジアの絵本だけ、などの利用も可能です。展示やイベントなどに、ぜひ一度利用してみませんか。



③ 「調べ学習支援セット」をご活用ください

調べ学習や学校図書館利用教育の導入に役立つ、紙芝居と絵本合わせて8冊のセットです。学校の先生方にも、ぜひ、おすすめください。

④ 「朝読・昼読ボックス」残り1セットです

小学校の低・中・高学年用図書それぞれ約85冊合計約260冊のセットで、主として学級文庫や学校図書館で活用していただけます。

算数・社会など多様な分野から選定した内容で、夏休み・冬休みを挟んで活用できるよう、約半年間貸し出します。

今回の貸出しは、11月から3月までで、3セットのうち2セットは既に貸出先が決まり、残り1セットとなりました。お早めにお申し込みください。



「調べ学習支援セット」



「朝読・昼読ボックス」

「調べ学習支援セット」は「子どもイベントサポートボックス」の「貸出申込書」(*)によりお申込みください。

「朝読・昼読ボックス」は、「支援事業申込書」によりお申込みください。

※「子どもイベントサポートボックス」の申込書を新しくしました。今回ご紹介した「調べ学習支援セット」を選択できるようにしています。

図書館ポータル>情報共有ファイル>ファイル一覧>道立からのお知らせ>平成24年度北海道立図書館市町村活動支援事業>子どもイベントサポートボックス貸出申込書・利用報告書

みなさんの図書館（室）の活動の情報をお寄せください！

最近始めた取組や好評だった事業など、

随時受付けています。

あけぼのつうしん No.41

発行日 平成24年10月24日

編集 北海道立図書館総務企画部企画支援課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町 41 番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-388-2063(総務企画部)

ホームページアドレス <http://www.library.pref.hokkaido.jp/>